

ネットデイサミット in 柏 共同宣言

2005/08/03

ネットデイサミット in 柏実行委員会

「ネットデイの第一の意義は、学校における情報教育のために必要な環境としての『校内ネットワークの整備』である」ことが確認できた。しかしながら、ネットデイの意義はそれだけではなく、ネットデイを実施するボランティア団体によりさまざまな意義付けがあることがわかった。その中でも学校と地域社会の新しい関係作り、子供たちを含めた広範な人と人とのネットワーク作り、などが重要な問題である。これらは、過去 2 回のネットデイサミットにおいて、「学校へ行こう」、「学校とのつながりを持つ」という言葉で表現された。これらの言葉は現在も有効な言葉として認識されるべきである。

その一方で、ネットワークの整備後のサポートも重要な問題として残されている。ネットデイボランティアがこれらすべてに責任を持つ必要はないが、ネットワーク敷設後に關して、十分なサポートが受けられる体制整備を視野に入れておく必要がある。なぜなら、一度動き始めたネットワークは、使えることがあたりまえと思われてしまうからである。また、校内ネットワークの教育インフラとしての役割を考えると、ネットワークに関する障害を可能な限り短時間で解決することが必要になる。そのために、ネットデイ後に必要なサポートについて十分議論をしておくべきである。

国の施策としての e-Japan 計画では、2005 年度中に、すべての学校のすべての教室に校内ネットワークを整備することが行政に求められている。ネットデイは、校内ネットワーク整備のためのひとつの方策を提供するが、あくまでもボランティア活動であることを失念してはならない。したがって、行政や自治体の思惑に振り回されることなく、『校内ネットワークを引きたい学校が引けるため』のネットデイを展開すべきである。そのためには、教育委員会を中心とした行政・地方自治体、地域社会、学校・保護者、ボランティアの役割とは何かを再確認し、子供たちの情報教育環境整備のために、真に必要なことが何であるかを十分考えてネットデイを実施すべきである。

最初の群馬のサミットのときから言い続けていることであるが、『われわれは安い配線工事屋』ではない。ネットデイは、ネットワークの配線工事とそれを介して得られる多くの付加価値を持った事象を含めたものである。しかしながら、それらの付加価値は実施する地域や学校、ボランティアによりさまざまである。各地のネットデイボランティアはこれら地域の違いを尊重し、必要な情報の共有と交換を実現し、よりよい校内ネットワークの整備に向けた努力をしていくことが必要であろう。